



K.A.O.R.U

The strongest children in the world.

JIBAKU-SYSTEM 2008
先行量産型

B.A.B.E.L

Though it gets him, they don't choose a means.

18禁
WARNING
OVER
18 AGE
成年
禁止



K.A.O.R.U

The strongest children in the world.

 JIBAKU-SYSTEM 2008
先行量産型

B.A.B.E.L

18禁
WARNING
OVER
18 AGE
成年
18+

Though it gets him, they don't choose a means.

Copyright 2008 Jibaku System
all rights reserved. no part of this book may be reproduced or transmitted
in any form or by any means, electronic or mechanical, including
photocopying or recording, without permission in writing from publisher.
published and distributed by Jibaku System keeping group.

CONTENTS

🐾 JIBAKU-SYSTEM 2008.10.05

K.A.O.R.U

P05 「KAORU」

作：涼樹天晴

P34 「無 題」

文：黒田
絵：蔓

P04 目次

イラストとゆーか穴埋め：涼樹天晴

P41 あとがき

P42 おくづけ





■これまでのあらすじ■

任務中に葵をかばった皆本が両手骨折の怪我をしてしまう



光一はんウチの中に
好きなだけ出してええんよ
ウチが光一はんの精子を
全部受け止めたるわ

そそっか...

光一はんがそんなに
気持ち良うなってウチは
女として嬉しいんやで

あ...あ...

あぁ...
光一はんのが
中に...出てる...

あぁ... 葵... 出すぞ



寝静まった深夜の病室

全ての事柄はここから始まる

| | |
|---------|----------|
| 主治医責任者: | 田中美依江 |
| 患者氏名: | 皆本 光一 |
| 主な病状: | 両腕骨折及び打撲 |

責任を感じた葵は自分の幼い体を使い
皆本の性欲処理をするという暴走にまで発展



これだけ濡れてれば
大丈夫かな

ううん平気やと思う...

一応ローション使うか?

もう光一はん恥ずかしいから
いちいち聞かんといていな

あいやその...

そして皆本は葵にそれなりに責任を感じつつ
大人としてのモラルはそっちのけで
隠れて交際する事に...



が、しかし紫穂へ事が発覚する

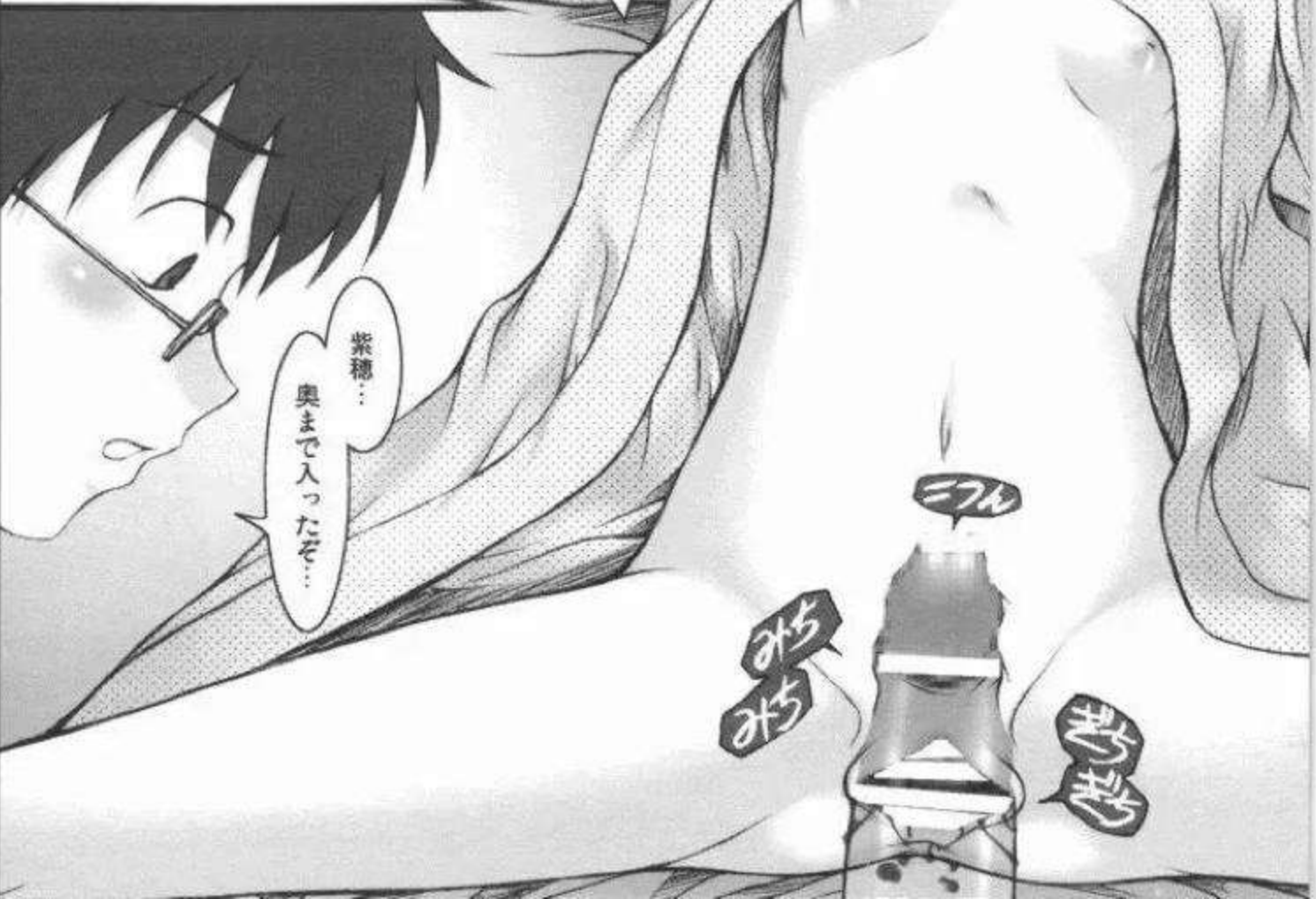
蜘蛛の巣に絡め取られる
羽虫のように追い詰められる皆本



そして皆本は流されるまま
紫穂を容赦なく犯してしまう



こうして話は薰へと続く...





「KAORU」

作：涼樹天晴

ちゃんと
手足を固定した？

ん、オッケーや
手錠でしっかり
固定してる

よっし
それじゃあ
いってみようか

なにこれ

なんかデローンと
なってる…

なんか新種の
生物みたいだなー

おおー
結構重いな



うーわ
すっげー

おー

こんなに硬くなるんだ

なんだ…

んん…
うるさいな…

か
薰っ！

えええっ

なんぞー

ちゅ





なんだこれ
薫、おい何してんだ

手が…

なにっ…
なにをしようとしてるんだけど

あ、皆本はん起きたで

葵…紫穂も…
二人とも薫を…

足も…
手錠で固定されてる!

駄目やで
チームで仲間はずれは
いかんやろー

はっまさか、志穂が映像を…
失礼ね、私じゃないわよ

なあ
あ、うちが薫に見せましたー

ねー



う
お
う

チロチロ

か
薫…

こんなもんかな?

おい
誰か聞いてくれー

くっそー皆本の童貞はもらうはずだったのにー
一番ビリなんて納得できないよー

もう
うっさいなー

はやまるな薫

明日はお前のほしい物をプレゼ...



これでもくわえてろ

むがっ



ふわ

美少女の使用済み下着なんて
マニアからしたら涎垂涎だぞ

むがー

(僕はそんな変態じゃない)



あら嬉しいって

うががー
(嘘言うな！)

うっしっし

そっだろー
皆本だけの特典だぜ

よいしょっと





あん

ふん

よっと

きん

おとなしく...

こちら
往生際が悪いぞっと

ウーウー

ひい



そんなにな...

ズチッ

あん

むがー

みし

ちん



駄目よ薫ちゃん
はやまっちゃん

えー
だってさー…

ほっ

ちょ
やめ!



私に入れるのが嫌か!

みじ

みじ

むがー

むべー



(それも違うぞ…)

ヴ…



だってや
ないで
壊れたら
どうすんねん

そうよ
これはみんなの
共有財産
なんだから!



ほら
薫ちゃん
私達が手伝うから

うん

よいしょっと



どん

ぐえ

ぐえって
失礼ね
そんなに
重くないわよ…

いいわ

そのままゆっくり入れて

くっ

痛っ…

ひあ…

薫…
ゆっくりやで

!!

うん

ひいっ

痛っ

っあ!!
あ!!

あっ

あ…ああ…

あ





ウツ

とりあえず中には
入ったけどな...

まだ龟头まで
入っただけやなー

うーん

か、薫ちゃん

ゆっくりでいいから...

ひいっ

おちち

おちち



ちよつと
おちつきーな

うがー

ほらこっちきて
ちよつと確認
しましょう

痛い痛いよ痛すぎ

いって
うわっ血、血が出てる
裂けたかも

なんでこうなったんだ...



おかえりー

おかえんなさい

おかえり皆本



ただいまー

…パベルから家に帰り…



あれ？

…メールで教えてくれた
ケーキを買い…



ああ…

皆本さん
お疲れ様

…機嫌が悪いはずの
薫が笑顔で…

わーい
フロマージュヤー



皆本

ぼろ
薫の機嫌...

悪いわよ
...ものすく...

とん

なあ皆本
人って本当に
怒ってるときって
笑顔になるんだな...

う...

か、薫...

みし

まで...
話し合えば...

ああ、後で
ゆっくり聞いてやるよ...

みし
みし

...そうだここで気絶したんだ...

がくっ



なあすっごく
痛いんだけど大丈夫かなー

そうねー

あちゃー完全に裂けとるなー

もうさ
なんてゆーか
体が二つに裂かれた感じ？

視てみるわね…



んー血は結構出たけど…

良かった
処女膜が
破けただけね…

えー
こんなに痛いのか…
続けるって事は…

我慢さえできれば
大丈夫よ…

また今度にする？

と言ってもこの状態だと
死ぬほど痛いだろうけど…

そっか大丈夫なのか…

ようし

葵も紫穂も通過した
道だもんな…

ならば再戦あるのみ
皇国の興廃この一戦にあり

ここで逃げたら女が廃る

どうする薫
1人で
いくんか？

ひい

んっ



とゆーわけで
またせたる皆本

うーうー
(まってない)

うーうーうー
(なあ考え直せ)

うーうーうー
(やらなくていい)

今度こそ皆本が私の中に
射精するまでやるぜ

皆本

うーうー言っても
紫穂じゃないから
わかりませーん



ふふふん

ぬいゅ
ぬいゅ

準備完了っつ

うーうー



このままじゃ素直に入らないから

ローションを塗って...

とーり

よっど

目標をセンターに確認して
固定して…

落ち着ついてー
深呼吸ー

すーはー

すーはー

いくぞ皆本
女は度胸だー

ああ
あ

あ

んあ

ず!!
ず!!
ず!!
ず!!
ず!!

みちみち

あく

みち

あ

!!

お…奥まで
…入った?

あ…

もう…これ以上
入らない…

駄目…あ…
痛くて…動けない…

おきち

あ…痛…

ん…駄…目…

ウウ…

…皆本?

あ

おきち

あ…

ああ…

あは…皆本…

射精…してる…

熱…

皆本のちんこ…
どくどくいってる…

おきち



あ…すごい…
入ってきてる…

ぶる、

わかる？
皆本…

私の子宮に…
…どくどくと…

お腹の奥に…
皆本が…
射精してるの…



うう…
(薫…)

なにか変な感じ…

あ…子宮に入りきらない精子が
出てきてる…

子宮の中が皆本の精子で
はんばん…

それに小学生の膣内に
射精なんて犯罪者だぞ

うひひ

おれ



あ…出てきた
これが皆本の精子か…

うっわ
痛った

まだ中に皆本の
ちんこが入ってる感じ…

あはっ
ネバネバー

どろどろ



痛ッ…

くっ…
ん

どろどろ
ゴポ



ゴポッ

ひあっ…
…あ…あ

どろどろ



苦…

んんん
(薰…)

痛かったけど
これで私も皆本のちんこで
女になったんだ…



ほら見てよこれ

こんなに皆本の
精液が出てきてる



無茶をして…

痛かったろ…

薫…

皆本…こんな事して…
怒らないの？

怒らないよ…

なんで？

多分…
悪いのは僕だからさ…



皆本…

ん…

はい、
初心者は
こちらまでやー

かきや

あの… 僕の意味は…

その次は私ね

はいはい 次はうちからや

う…それは…

まだ痛くて できないでしょ？

えー なんてだよー



同日 某特務機関



チルドレンが妊娠してる!?

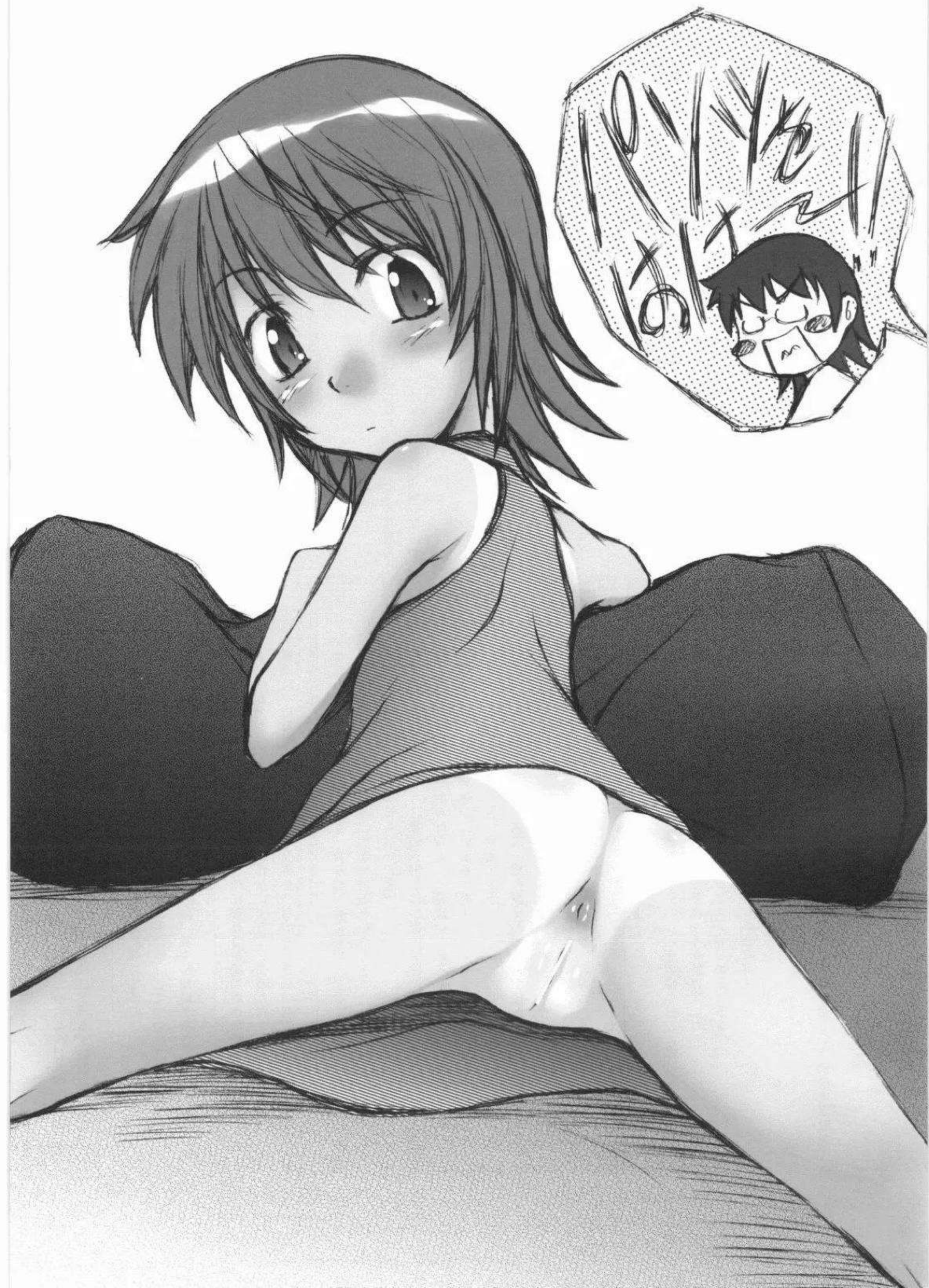












明石薫は、どこにでもあるようなビジネスホテルっぽい一室の中、これまたいたいた特徴のないベッドの上に大の字になって四肢を拘束されていた。意識が無いのか、どこかぐったりとしていた。

そんな少女を取り囲む、男達。彼らは、なんの特徴もない黒いスーツにサングラスをしている。髪型は、七三わけどこにでも見かけるような普通のジャパニーズサラリーマン。

普通に、本当になんの特徴もないどこにでもいる普通の人々が、それぞれの瞳、口元には、いやらしい笑いを浮かべながら、薫を見下ろしていた。

「ECM（超能力中和装置）は起動してるだろうな？」

「ああ、使っていないと、危険だからな……」

「さんざん暴れてくれやがって——」

サングラスで隠した目の回りに思い切り固い物をぶつけられたような、そんな青あざが明確に浮かんでいる。普通に殴られたのではそうはいかない。よほど固いなかをぶつけられたのだろう。

「で、仕返しはいつするんだよ？」

「とりあえず、この小生意気なガキが目を覚ましてからだ。寝てる場所を勝手にいみがないだろう？」

「いいのか？ ガキだろう？」

その言葉に、いやらしいくぐもった笑いをもって応える。

「くぐぐ。エスパーは人間じゃないからな」

男達はサングラスの奥で、瞳を光らせると、動けない薫にそろって向き直る。

「おい！ おきろ！」と男はべちべちと薫の頬を叩いた。

クスリで眠らされているわけでないのか——

「んっ、ううん……」薫は、くぐもった声を漏らす。

それを見下ろす男達の瞳には妖しい光が、浮かんでいる。

「そろそろかな？」感情を押し殺しているのではなく、なにかを期待したような、声だ。

「んっ、うううん……」もぞもぞと顔を左右に動かしたとき、男達はにやにやと

笑った。

「なっ、なんだ……」

薫は、はっとして体を動かした。しかし、両手両足が自由にならない。その事に気

がついたとき、男達は、にやにやと笑みを浮かべながら少女に向けて手を伸ばした。

「無駄だよ。ECMはフルパワーだし、そのワイヤにはアラミド繊維を混ぜているから人間の力では斬れない」

「いままでさんざん、暴れてくれたお礼を君の身体にするだけだ」

わらわらと伸びた腕。薫の身を包む布地に手を伸ばして力の限り引っ張った。

服は限界まで伸び、やすやすと千切れる服。徐々に肌がさらされてゆく。

「ちよっ！ やめろ！ このおお！ 破るな！」

一瞬で半裸に近い姿になり、薫が必死に暴れるが両腕両足は自由にならない。

「君が超能力を使っても簡単に千切れないようにしてるんだ」

男達は、口々に愉快そうに笑みを浮かべながら、さらに薫の身体を蹂躪するべく曾於腕を伸ばし、柔らかい身体をなでさする。

「ほほう、超能力者と言っても、身体は、柔らかいんだな」

「ミュータントとかだと身体に変化があるというしな」

「さて、あそこはどうなってるのかな？」

男達は、楽しそうにさらに薫の衣服をはぎ取ってゆく。

瞬く間に下着姿にまで剥かれると、その破いた元衣服であったものをどける。

半裸の薫をサングラス越しに見下ろす男達。ゾクゾクと背筋が震えるのが分った。

「このっ！ へんたい！ 後で覚えてろ！」

薫は、さらに声を上げて、抵抗を繰り返すが超能力が使えない今、ただの空しい抵抗にすぎなかった。声を出さずにはいられなかったのだろう。

「大丈夫だ。すぐに忘れろさ——」

「強がってもガキだな」

男達は、顔を見合わせながら、薫の幼い身体を觸るようになでさすった。男達の手は止らない。

むしろ薫の胸部から、腹部、陰部へと手のひらを伸ばし執拗に撫でる。

そのまま、指先ではねるように微妙な刺激を与え続けていた。

指が食い込むことによって、うっすらとスジが浮かんだ下着。

そのまま、指を沈み込ませるようにスジに刺激を与えた。

「あっ！ くっ！ この！ このおお！」

薫の頬が赤く染まる。

じたばたと四肢に力を込めて、抵抗するのだが、やはり空しい抵抗にすぎなかった。

そのまま、小さな下着に手を伸ばすと——



「こら！ やめろ！ このっ！ このおお！ やめろ！ やめろ！ 皆本！ 皆本お！ いやだ！ いやだああ！」

「一気に性器を覆う布を引きはがそうとする——
そのとき——」

扉が蹴破られ、わらわらと武装した男達が一斉に突入してくる。

「そこまでだ！ 抵抗するようなら射殺する！」

過激な言葉。だが——

それは真実であるのは、男達から発する気配でありありと感じられる。

薫を取り囲む男達は、顔を見合わせるが、以外と素直に両手を上げ制圧は終了した。

「大丈夫か？」

そういつて駆け寄る皆本。だが、薫は、びくりとも動かずにどこか放心したような眼差しで、天井を見つめ続けていた。葵と志保は、状況が状況だけにわざと連れてこなかったのだが、それで良かったみたいだと、皆本は内心で思っていた。

2

皆本のマンションに帰りがらない薫。結局、バベルの管理から離れた、とあるホテルの一室。

薫がそれを望んだからだ。薫は、あれから誰とも長い会話をしなかった。

話をしても一言二言の軽い要求だけ。自ら望んだホテルの一室に落ち着いても、ただ、ずっとベッドの上に腰掛けている。ひざを抱えるようにして座る姿。いつもの元気な姿は微塵にも感じられない。

精神的に壊れてしまったのではないのか？ そんな不安がチラと皆本の脳裏をかすめる。

「薫、落ち着いたのか？」

そういつて、ココアの入ったマグカップを渡そうとする。

だが、それを取る気配もない。ここまで沈む薫も珍しかった。

「単独で突っ走るからだ。これに懲りたら、少しはぼくの言うことも聞いてくれよ」
そういうと、皆本はそっと薫の隣に腰を落ち着けた。だが、薫は、まだ何も言う気配はなかった。

ずっと沈んだまま。皆本はため息をもらすとおもわず、そっとその頬に手を伸ばす。

薫は、慌てたように、身体をこわばらせた。二人して沈黙。皆本は軽く息をのんだ。
「そうか……ここに置くから、落ち着いたら飲むと良い」

皆本はベッドのサイドテーブルにそれを置くと、部屋を後にしようとする。

「ぼくは隣の部屋にいるから——」

そういつて腰を上げようとした皆本だが……。薫の指先が服の裾をつかんだ。

「薫？」

薫は返事をしなかった。ただ、うつむいたままじっと前を見つめている。

皆本はため息をつくとそっと腰を下ろした。すると薫は甘えるようにその身体を寄せてくる。

ぐっと、服の裾から胸元をつかむようにして指先に力を込め。皆本は無言で、その頭を撫でた。

するとさらに胸元に顔を寄せ、思い切り抱きついてくる。

「……怖かったか？」

皆本はそう問いかけるしかできなかった。

無数の男に囲まれ、その男達に煽られようとしていた。

いつもは下品な下ネタが好きであっても直接こういう目にあうのは別物なのだろう。

薫は、本気でおびえていた。その様子をありありと感じ取っていた。

何度目かだろうか？ その頭を優しくなでさすっていると——

「皆本……」

薫が震えるような声で、つぶやいた。

薫は皆本の背中に腕を回すとそのままさらに腕に力を込める。

「大丈夫だから」

皆本は、そういつたものの薫は少しも動かなかった。

そっとその背中に腕を回す。びくり！ 薫の身体がはねた。

皆本は、おもわず手をのけようとしたが——

自分の意志と裏腹にその腕は、薫の背中に回っていた。

薫の身体が、小刻みに揺れている。

薫の力だろうか？ それとも自分の意志だろうか？

皆本自身判断が付かなかった。だが、薫は明らかに皆本の側を離れようとはしない。

己の意思で、それを求めているのか、それとも……。

「いくな……よ」

震える声で、薫は求めてくる。

「だいじょうぶ……ぼくはどこにも行かないよ」

おもわず背中に回した腕に力を込めた。今度は自分の意志だと皆本は自覚できる。

おもわず背中に回した腕は、己の意思だと――

「……だいて」

「なっ！ あのな！ お前！」

おもわずすっころびそうになるのを堪えて、おもわず腰を上げようとする。

ぎゅっ！

薫の腕が、離れようとしなかった。指先がわずかに震えている。そのまま、顔を寄せている。

「おねがい……こわいよ。忘れたんだ」

「あのなあ」皆本はため息をつくと頭を掻いた。「そんなことをしても、なにも変わらないだろう」

「変わるよ……忘れられるから……」

震える声で、さらに求めてくる。薫の体が熱かった。その熱が伝わってくる。

「こんなことしても……」

「皆本は、嫌いか？ わたしのこと嫌い？」

「好きとか、嫌いかじゃなくて……」

「だったら、いいじゃんかよ……」

「そういう問題じゃ――」

「そういう問題だよ。今日、もう少しで好きでもない奴らにめちゃうちゃにされるどころだった……どうせなら、始めては好きなヤツとしたい……」

薫は、そういうとさらに腕に力を込めて、身を寄せる。

「おまえなあ、それがどういふことか、分ってるのか？」

「分ってるよ。あ、あんな目にあわされたら……」

薫は、そういうと身をぶるりと震わせる。皆本はまだ、当然のように迷っている。

そういう目で、見たことはない。だが、目の前の薫は――

薫の背中を抱く腕が震えた。

「今日は、たまたま助けが間に合ったけど、今度もしものことがあったら……」

「そうならないように――」

「その保証はどこにあるんだよ！」

叫んだとき指先にこもった力が、皆本の身体に食い込んで――痛さすら感じた。

「今度、もしもの時、今日みたいに皆本がいなかったら、皆本がいるって保証が

――

さらに腕に力がこもって、食い込んでくる……。

心の傷が、皆本にはつきりと伝わる。皆本は、そっと腕に力を込める。

「いいの？」そう震える声で問いかけた。

「いいよ、初めては皆本って決めてたから……」

しばらく見つめ合う。そして、皆本は息をのむと、ゆっくり薫の身体に手を伸ばして、そっとベッドに寝かしつける。薫は、どこか顔を見せまいと皆本の視線から逸らす。

「んっ……」

いがいに柔らかい身体。子供特有の少しだけふくらんだ腹部。優しく撫でる旅に薫の身体は鋭敏に反応した。一糸まとわぬ薫の姿。皆本は、さらに優しく指をはわせた。

「く、くすぐりたいよ」

薫はそういうと、くすぐすと笑う。

「そうか？」と皆本はそっと深部に指をはわせ、優しくクレバスをこすった。

指を沈み込ませるように、指の腹を滑らせる。

「あっ！ くっ！」

びくりと震えるのと別に薫の身体が踊る。

「んっ、ふっ、ふう……ゆびが……」

皆本は、そっと、優しく薫の性器の中に指を沈み込ませる。

そのまま円を描くように人差し指で、薫のあそこを掻いた。しっとり濡れてゆく。

「あっ、くっふ……んっ、くう」

薫は、甘い声を漏らしながら、皆本の指を感じていた。

自分の指が徐々に湿り気を帯びるのを感じていた。

少しずつ大人になっているのだと分る。身体は、かすかな愛撫で全て反応を返す。

「んっ、な、なかでうごいて……るよ」

荒々しく息を吐き出すたびにその頬はほんのりと赤く染まり、女らしい姿を見せた。指で感じる敏感な身体。青い果実だと思っていた少女は、静かに熟し始めていた。

皆本は、おもわず息をのむとゆっくりと固くなった怒張を握りしめた。

「かおる……」

自分でもらしくないと思いつつおもわず少女の名前を呼ぶ。
薫は、こくりとうなずいた。ゆっくりと肉棒をあてがった。
小さな卑裂がゆっくりと広がった。

果実の果肉を割るように押し込むたび、ぱっくりとザクロのような果肉をちらりと覗かせていた。

「あっ、くっ……」

ねじ込むように腰を使い始める。苦しげにうめく姿。おもわず皆本の腰が止りかける。

だが――

「いいから続けて……」薫は、そう求める。

自分の身を包む背徳感、それよりも薫の要求に従った。

「んっ、くっふ……」

切なげにあえぐ声。苦しそうにしながらも、じょじょに笑みがこぼれはじめた。

「あっ！ くっふっ！ くっうう！ ああ！ ああああ！」

先端がなにかに当たる。同時に薫の身体がこわばった。

その声に皆本は今自分が薫を女にしようとしているのだと気がついたが――

「や、やめないで……」薫はいじらしくそう求めてくる。

皆本は息をのんだ。腰に手をあてがいそのまま、一気に貫く。

「あっ！ ぐっ！ くっうう！」

果実が潰れたような物音、同時にそこから赤い蜜が滴り始める。

どろり、どろりと、肉棒を包み込む。ぐっ！ 力強く握りしめる手のひら。震えた身体。

た身体。

痛みを堪え全身で、女になった喜びを薫は、全身で表していた。

「こ、このまま……う、うごいて……」

薫の狭い膣が皆本のそれを荒々しく握りしめる。

乱暴に締め付けた膣壁が皆本を荒々しく責め立てた。

「くっ！ ああ、きつ、……きつい」

あまりの狭さ、そして収縮した膣が、皆本を高ぶらせた。

ずぶずぶと蜜にまみれた肉棒を前後にスライドさせる。

動き始めたそれはさらにピッチを上げた。

「あっ！ ふあ！ くあああ！ う、うごいてる！ 動いてるよ！」

ずんずんと音を立てて、動く腰。

打ち合うたびに薫の身体に汗の飛沫がじんわりと浮かび、転がり始める。
口を大きく開けて、息を吐き出した。そのときだ！ 薫の膣はさらに乱暴に収縮を開始した。

「ぐっ！ くっうう！ でっ！ でる！」

皆本の額に玉のような汗が浮かんだ。

「だ、だして！ いいから、だしてええ！」

薫の声とともにさらにきつく荒々しくしまった膣。

「くっうう！」

白濁とした液体が薫の体内に注がれる。そして、そして――

薫は、この日、一人だけ大人になった。

ベッドに腰掛ける二人。

「へへへ」

「なに、笑ってるんだよ？」

ぬるくなったココアと手に満足そうな薫。

「だってさ、一番最初に女になったんだと思うとき」

「あのな……」皆本はそういっておもわず揚げたてをしばらく中にとどめる。

それから薫の頭に置いて優しく撫でた。

「あっ……」

この小さな少女を自分は守らないといけないのだ。改めてそう感じる。

そのとき、薫はそっと身体を寄せてきた。

「なあ、皆本……ずっと、こうしてたいな……」

そうつぶやいた、薫は、いつもよりも大人びて見えた。

そうだな……と応え勝てたが、おもわずその言葉を飲み込む。

皆本は何も言えなくなって薫のその小さな肩を抱いて寄せた。



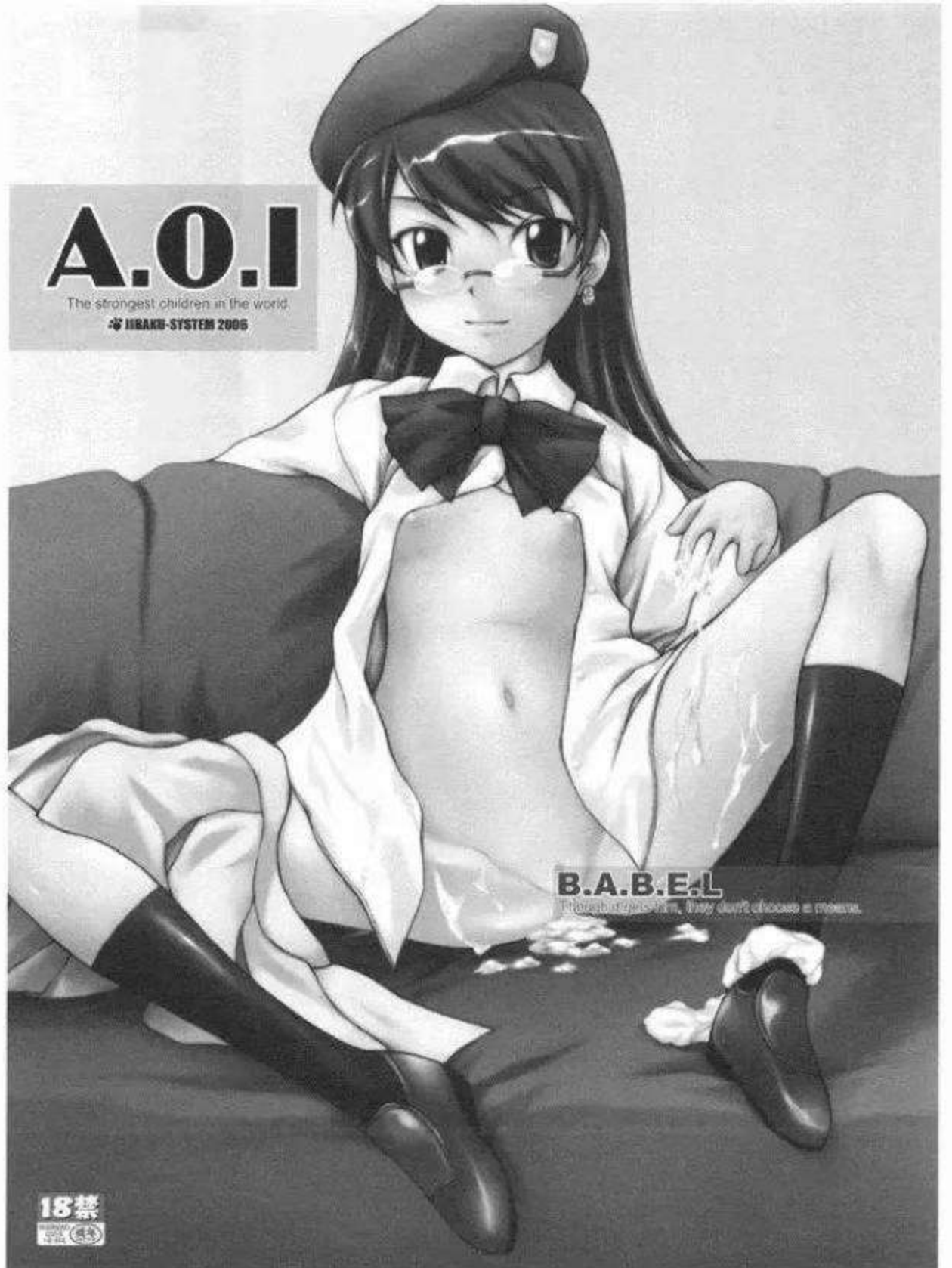
既刊です。

「これまでのあらすじ」の話です。

直接通販はやってませんが

書店があつてくれれば売ってますw

もし興味があったら見て見て下さい^^



ただ状況が状況だから
いつまで販売できるか…

そういえば既刊情報なんて
はじめて載せたのかも

■あどがき■

JIBAKU-SYSTEM

2008.10.05

<http://hwbb.gyao.ne.jp/kimidori-pb/>
kimidori@pb.highway.ne.jp

DAY LIGHT STAFF

■黒田さん■ いつもありがと一ところで今回は題名なし？

遅れてすみません。
割腹してきます。

最後に葵か志保のパンツがほしい。

b y 黒田

■蔓さん■ はじめまして～本出すの遅くなってすみませんでした～ゴマ(-人-);(-人-)ゴマ



■涼樹天晴■

どもです、ものすごく久しぶりにちゃんと同人誌を作りました(;´Д｀)
はっきりいってもう倒れそうです。
再録にまったく手を入れられませんでした…
なので薫のアナル漫画を新しく書く予定です。
いやほんと全然駄目…もう頭クラゲ状態くらくら…まだ編集中だし…
局部修正が…もう嫌だー無修正本にしたい…
とりあえず3人目までできました。
あともう少しお付き合いください^^
…やべ…小人が見えてきた…

K.A.O.R.U

THE STRONGEST CHILDREN IN THE WORLD.

B.A.B.E.L

Though it gets him, they don't choose a means.

🐾 JIBAKU-SYSTEM

2008年10月05日初版発行

発行 自爆SYSTEM (涼樹天晴)

HP : <http://hwbb.gyao.ne.jp/kimidori-pb/>

メール : kimidori@pb.highway.ne.jp

印刷所 トム出版 様


18歳以下の未成年への販売を禁止

無断転載・複写を禁止



K.A.O.R.U

The strongest children in the world.

 JIBAKU-SYSTEM 2008

先行量産型

B.A.B.E.L

Though it gets him, they don't choose a means.

